

科目名	音楽療法の技能Ⅱ	形態	講義	開講期	春学期
担当教員	長江 朱夏	単位	2	年次	2

＝授業科目の目標＝

様々な音階やリズムを実際に楽器に触れて体験的に学ぶことを通し、実践活動に適用し柔軟に対応できるためのスキルを養う。グループを対象に音楽活動をする際に必要な基礎的な対応力と、個別に必要なとされる“オーダーメイド”の音楽創りの重要性を理解し、そのテクニックを学ぶ。

※日本音楽療法学会で認定する音楽療法士（補）受験資格を取得するために必要な科目である。主専攻以外の学生が取得する場合は、音楽療法について学ぶ意欲を持っていること。また、音楽療法総論も履修していることが望ましい。

＝履修の条件と学習の方法＝

- ・ 課題やマテリアルについては、各自練習の上授業に臨むこと。小テストは適宜授業の中で行う。
- ・ 楽器の準備と片付けは、受講生船員で協力して行うこと。
- ・ 授業を欠席する場合は、担当教員への事前連絡をすること。また、翌回までにクラスメイトに授業内容と課題を確認をし、必要であれば教員を訪ね次の講義へ備えること。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：シラバスの説明、1音での即興
- 2回 黒鍵ペンタトニック、ムードを変える
- 3回 ムードを変える要素、感情表現の即興
- 4回 白鍵ペンタトニックそしてモード、モードで気をつけること
- 5回 クライアントに合わせて即興するという事、
- 6回 リズムグループの中で基本拍を作る
- 7回 リズムグループのリード
- 8回 モードのおさらい、他の音階（沖縄音階他）
- 9回 これまでのおさらい
- 10回 2和音＋メロディーの即興
- 11回 コード進行を捉える、骨組みを理解する
- 12回 ベースの進行、典型的な和声進行
- 13回 グループ即興を支えるセラピストの音楽
- 14回 即興と曲のアレンジ
- 15回 これまでのおさらい
- 16回 期末テスト

＝成績評価の方法と評価の基準＝

授業内において、次のような基準を設ける。実技テスト（各 10%）：ペンタトニック、モード、ムードを変える、その他の音階、基本拍を提供する、和声進行をつかった即興、リズムグループのリード、など。点数が高い評価のもの 8 項目を総合評価へ採用。おさらい課題（15%）。授業態度（15%）。

学期中の実技テストについては、不合格の場合、翌週に再試を行う。

＝テキスト（必携）＝

授業中に随時配布する。